



Twitter



YouTube

明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 267

2024

3.6

松が丘小学校&土小学校研究交流会感想第2弾

「松が丘小学校&土小学校研究交流会」に参加された先生方からの感想がとどきましたので紹介します。参加された学校は、新年度に向けて、研究推進委員会のメンバーが参加されていたようですが、感想はその一つの学校からです。

松が丘小と土小の実践をはじめ、他校の取り組みを知ることができ、たくさんのヒントをいただきました。

研究推進のメンバーが5人、各学年層のブレイクアウトセッションに分かれて参加させていただきました。職員の第一声が「おもしろかった。参加してよかった」でした。その声で、交流会が終わったあと、全員が校長室に集い情報共有をしました。職員の感想としては、学びを地域とどのように共有していくのか、いろいろな例を知ることができてよかったというのが一番でした。松が丘小学校の福祉についての学習で、子どもたちが地域の人に困っていることをインタビューするなかで、「ハード面のバリアフリーが必要だと思っていたけれど、心のバリアフリーを願っていることがわかった」という「地域と関わる中で子ども視点での活動が新たな学びにつながる」ことを教えてもらったと中学年のセッションに参加した職員が報告してくれました。こういうことが研究だねと話し合いました。

本校は、これまでのユニバーサルデザインの研究をもとに今年度までの4年間は国語の物語教材の研究を行ってきました。来年度の校内研究の方向性を考えていく中で、「本当にそれでいいかと」問いかけながら、少しずつ意識改革を行いメンバーで勉強しています。今は明石市が推進している「探究・地域・ICT」を意識して、教科を横断的にとらえて研究を行っていくという方向性が見えつつある状態です。一足飛びに地域を根幹に据えての研究とはいかないですが、今回の交流会に参加させていただき、北本先生のお言葉を借りると、「先生方が答えを求める研究ではなく、自分たちが創りだしていく研究」をできればと感じました。次回も参加させていただきたいです。引き続き、また、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

私自身は、梅津校長先生の見識の広さと深さと見通しが素晴らしく、改めて校長としてのあるべき姿を認識した次第です。また、目指しておられるのが松が丘小学校ということで、明石市として、誇らしいような感想をもっています。

私も校長として、今以上に地域の方々と広く深くつながり、学校を核にして地域で子ども達を育てる風土を作っていきたいと思います。また、職員も地域に出て地域の方々とつながっていくこと、そして、先進校でも隣りの学校でも、とにかく交流して、前分からなかったことが一年後分かる、という経験をたくさん積んでほしい、その機会を保障していくことが必要だと思いました。

【低学年層】

- ・生活科で似たような取り組みをいくつかしていますが、地域や保護者との関わりを取り入れていくことで、魅力的なカリキュラムになるということが分かりました。貴重な研究発表を見せていただきありがとうございました。
- ・土小学校の取り組みは、本校の取り組みと似ているところが多いなと思って親近感が湧きました。（関東という遠い地ですが！）だからこそ、「つながり」の観点を可視化することで、全教職員が同じ方向を向いて、進めていくことができるのかなと感じました。松が丘小学校の取り組みの素敵ポイントは、「読み聞か先生」がいいなと思いました。全教職員で全校をみることで、児童実態の把握にもつながると思いました。
- ・どちらの学校も、地域を巻き込んだ取り組みをされていて、「開かれた学校」を実践していて感心しました。学校外の方と何か新しいことに取り組もうとすると、事前の準備や調整、事後の報告など、たくさん取り組むことがあり、どうしても二の足を踏んでしまうところがありますが、こういった取り組みが今後の学校の在り方として必要になると感じました。ぜひ参考にさせていただきます。ありがとうございました。
- ・松が丘小学校の取り組みを見て、地域にあった取り組みをされていることがわかりました。地域にどのような特徴があるのか、どのようなイベントが行われているのか地域について知ることも大切だと思いました。また、生活科の授業で取り組まれていましたが、教科を横断して取り組みを考えることも大切だと思いました。地域にあった取り組みをすることで、生活科の教科書に載っている教材を全部行うことは難しく、選ぶことが必要だと思いました。
- ・このような活動を総合的な学習の時間が始まったころにした活動が、見られました。時間に追われ、この子どもたちに考えさせる工程を省いてしまったことを思い出しました。そのあたりをきちんとされていて、素晴らしいと思いました。実践を見せていただき、ありがとうございました。
- ・<土小学校>
ICTの活用が面白そうだなとおもいました。2年生でもCM作りができるというのは教師の支援もそうですが子ども達が楽しんで授業に取り組んだからなのかなと思いました。今後の授業づくりの参考にさせていただきたいです。
- ・<松が丘小学校>
育てた野菜をマルシェで売り、実際にお金のやり取りをして、3年生のほたるの学習へつなげるというのは、子どもたちの中で算数や生活などの学習が実感を伴った学びになっていそうで素敵だとおもいました。
- ・<その他>
オンラインの欠点ではありますが、機材トラブルや音声の途切れなどがあり実践のすべてが見れなかったことが残念でした。せっかくの発表の場ですので、発表者に負担のないような方法で会場設定をしてほしいです。
- ・<松が丘小について>
地域との関わりが深い学校だと感じました。地域の方というと、SGさんやきらきらさんのような年代を想像しますが、大学生のOB・OGや企業の方も含めての井戸端会議が様々な年代・立場の方と関わっておもしろい試みだと思いました。よみきか先生は、学校全体で全員を見られる感じがして、クラスの雰囲気を感じられたり、少しいやな雰囲気があっても早めに対策が打てるのではないかなと思って、よい取り組みだなと感じました。

・ <松が丘小>

1年生は「ありがとうを伝えるステージ」として、学校たんけんや、ふれあいガーデンを実施されており、

普段私たちが行っている教育活動（カリキュラム）に一つ付け加えて決めたテーマを意識させるだけで、教科の目標だけでなく、学校としてつきたい力や目指す子ども像を系統的にとらえながら、指導されていると思いました。

2年生も「まつ小マルシェからはじまるほたる銀行」というテーマでまちたんけんを生活科の学習としてだけでなく、地域の方を意識した学習になっていて、3年生に向けて実際のお金を数える活動を行っており、「自分事として」「持続可能か」「他教科との兼ね合い」という2年生の振り返りの観点が学校全体で共通理解されていると思いました。

<土小>

1年生は、自分が体験したことを幼稚園の子に伝える活動を通して、相手意識を持って継続的に学習していることが素晴らしいと思いました。その結果、粘り強くなったという評価をされていたので、粘り強くなった根拠をアンケート等で示していただけると、さらに説得力が増すと思いました。

2年生は、自分の地域のよさを知ることだけでなく、ICTを活用されていて、事業所の方にPR動画を見せる活動が素晴らしいと思いました。情報操作やメディアリテラシーを学べるとともに、保護者や地域の方向けにプレゼンする力も育まれ、他教科との関わりが深まる活動だと思いました。

松が丘小学校も土小学校も、これだけの実践を行うするには、たくさんのPDCAと先生方の試行錯誤があって、その積み重ねが必要だと思いました。本校の現状では、特に地域とのかかわりにおいて、ここまでの素地がまだありません。両校ともに、素晴らしい実践の積み重ねの成果だと思いました。

【中学年層】

- ・両校ともに、福祉や環境などを軸に【地域の方との交流から課題を見つける取り組みもされていた】、必要なタイミングに必要な人材【地域の方や専門の方】を招いて、学習を進めていた。話を聞くだけでなく、体験活動もセットなので、実感を伴った学びになったと思う。そして、学習の最後には、地域の方に学んだことを発表し【オープンスクール】、還元する。そうすると、一方的な発信ではなく教えた側もやりがいを感じるので、お互いメリットがあると感じた。これらを踏まえて、本校の課題点を挙げるとすると、まず、地域の方との垣根が少なからずあること。窓口も少なく、来てくださる方も限られている。そして学校でどんな取り組みをしているのかを伝えられていないこともある。校区のため池の学習を10年も遠ざけていることを地域の方々は知らなかった】お互いの情報交換の場が必要だと感じる。小学校で抱えている問題は何か、子ども達に必要な学習や体験は何か、そのためには地域にどんな方がいて、どんな活動ができるのか、それぞれの学年の取り組みを整理し、把握し、共通理解することが大切だと実践交流を見て感じた。
- ・松が丘小・土小の取り組みは、職員も児童も熱心に取り組んでいて、地域と密に関わっているのが非常に良かったと思います。授業を地域の方と一緒に作っている感じが魅力でした。二見北でもできることがあると思いました。（例：近くの池で野鳥観察、中学年・高学年でも地域の良さをインタビューし、他校へアピールするなど）

【高学年層】

- ・ 接続トラブル等もありましたが交流を行えて良かったです。
- ・ 5年から6年のプロジェクトの引継ぎの際に方法だけでなく内容や思いを引き継ぐことでプロジェクトによりやりがいがあるのでよいと思いました。
- ・ 地域とのかかわりについては今後各学校の課題になる内容だと思うので今後本校でも似たような取り組みができればよいと思いました。
- ・ 自分たちの考えや思いをもってから、地域の方に直接インタビューすることで自分たちの考えと地域の方たちとの思いにずれが生じ、そのずれを埋めようと児童がやる気になるのでよいと思いました。
- ・ 実践を紹介していただき、2校とも、学校と地域とのつながりがしっかりと築き上げられていることが伝わりました。

土小学校の総合の取り組み10のポイントに、地域からの「本気の依頼」があるといわれていました。これからの単元構想において、学校から地域への協力をお願いするだけでなく、この視点は取り入れていきたいと感じました。

新年度向け 先生たちみんなで話し合い

鳥羽小学校で2月28日に“先生たちみんなで話し合い”がおこなわれました。いつも話し合っていると言われそうですが、学校のパーパスにつながることを新年度に向けて対話する機会を持たれたのだと思います。

○今から10年後20年後、私たちの暮らしや環境はどうなるんだろう？

○超情報化社会、人口減、温暖化をはじめ、まだまだ予測困難な未来。

それは子どもたちが大人へと成長し、活躍していく未来です。

そんな予測困難な時代を生きていく鳥羽っ子のみんなが遅く生きていくためには、どんな力が必要なのか？

こんなテーマを“えんたくん”を囲みながら思いもメモに落としながら対話がおこなわれたようです。そんな中で、コミュニケーション力、自己決定力、当事者意識・・・、たくさんのキーワードが出てきたようです。こうした中で出てきたキーワードは、単なるキーワードではなく、イメージが共有されたキーワードなんだと思います。そうしたイメージの共有がボトムアップの研究へと発展していくのだと考えます。こうした“えんたくん”の記録が学校の財産になっていくのだと思います。

学校として、こうした対話を校内だけでなく、保護者の方や地域の方などと広げていきたいという思いを持っておられるようですが、新年度には具体化するといいいですね。

そんな鳥羽小学校の学校運営協議会の委員さんがネットから面白い記事を見つけたそうです。



トーク・フォークダンスの様子

「学びの場.com」というサイトの“教育つれづれ日誌”という教育エッセイの中の“「トーク・フォークダンス/大人としゃべり場」が全国秘かに浸透中”という記事です。

トーク・フォークダンスは、踊りではありません。フォークダンスのように、どんどん相手を変えて対話をする方法です。こんな対話の方法もあるんですね。ひよっとしたら・・・。

(参照：学びの場.com <https://www.manabinoba.com/tsurezure/018816.html>) (文責：北本)

